

# みんなくりポジトリ

国立民族学博物館 学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

オルタナティブ教育と時のデザイン：  
現代アメリカにおけるアーミッシュという生き方

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2012-02-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10502/4548">http://hdl.handle.net/10502/4548</a>

## 報告 2

### オルタナティブ教育と時のデザイン

#### —現代アメリカにおけるアーミッシュという生き方—

国立民族学博物館 鈴木 七美

#### はじめに - アーミッシュの暮らしの風景 -

「アーミッシュ」の農場や家は、電線がないことで明確にわかる。電線は、外の世界、現代文明を無批判に受容する悪徳の世界と繋がることを象徴するものとされる。モノトーンの決まった色の布の洗濯物が、決まった曜日に順序正しく干されている風景も、アーミッシュの特徴である。月曜日が洗濯の日とされているように、一週間の生活はおおよそ決まっている。



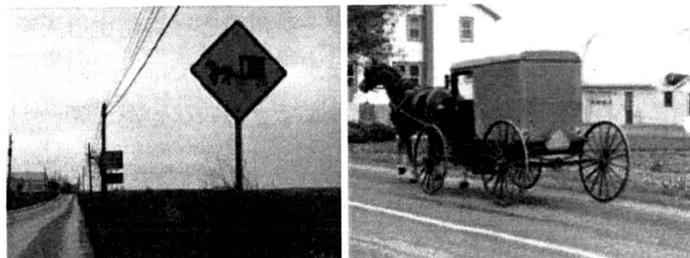
アーミッシュの農場 ペンシルヴェニア州ランカスター 2007年6月

1989年に、ペンシルヴェニア州ランカスターで馬にひかせたバギーを初めて目にした時は驚いたものだが、アーミッシュが多く暮らす地域では当然の風景であり、自動車と共存している。「バギーに注意」という標識も使われている。駐車場のあるところにはどこでも、馬をつないでおける場所が設けられている。どこにいても馬糞の匂いが漂う。アーミッシュたちは、「変わったのは『世界』だ」と表現しつつ、走り続けている。

#### 1 アーミッシュの起源

アーミッシュの起源は、宗教改革急進派であった16世紀のスイス兄弟団(1525年)に遡る。兄弟団は、キリスト教において一般的であった幼児洗礼に異を唱え、成人となってから自分で考えて信者となるべきだとして、自由意志の洗礼を主張したため、「再洗礼派」(アナバプティスト)と呼ばれた。

1530年には、メノ・シモンズに従うメノナイトが現れ、絶対平和主義、国家と教会の分離を訴え、官職や兵役につくことや宣誓を拒否した。



ペンシルヴェニア州ランカスター 2008年11月

1639年には、ヤコブ・アマンに従うスイスメノナイト急進派がアーミッシュとして分離した。アーミッシュは、信者同士の洗足を重視し、いったん仲間となった信者が考えを変えた時には、厳しい「シャニング」(社会的忌避)を実践するという特徴があった。

自由意志の洗礼や国家と教会の分離などの主張は危険とみなされ、メノナイトやアーミッシュは激しい迫害を受けて、北米などに逃れた。現在では、アメリカの27州やカナダのオンタリオ州に暮らしているが、とくにペンシルヴェニア州は、クエーカー教徒で宗教的寛容を掲げたウィリアム・ペンが拓いた州であるため、多くの再洗礼派が移住した。ペンシルヴェニア、オハイオ、インディアナ州にオールドオーダーと呼ばれる最も厳格なグループの70%が生活している。

## 2 注目されるアーミッシュ

近年、アーミッシュは、しばしば話題に上るようになった。

第一に注目されている点は、現代文明の適用に慎重で古くからの生活習慣を守っているにも関わらず、人口が増加していることである。19世紀半ばまでは150人ほどの成人メンバーを数えるほどだったが、20世紀初頭には5,000人に、そして2007年には220,000人(このうち洗礼者は100,000人)に達している。平均子ども数が7から8人と比較的多いこと、アーミッシュとして留まる子どもの割合が80%に上ることが理由としてあげられる。

このように拡大傾向にあるアーミッシュについて、2007年には、国際会議「アメリカのアーミッシュ-新しいアイデンティティおよび多様性-」が開催された。そこでは、20世紀には、教育や徴兵をめぐる、アメリカ一般社会と対立することもみられたアーミッシュが、21世紀には現代アメリカ社会においてどのような暮らしを営むのか、周囲にどのようなメッセージを投げかけるのかということについて、議論がなされた。

第二に注目されている点として、無保険者、ホームレス、若者をめぐる問題などが憂慮される現代アメリカにおいて、教育、仕事、つきあい方に特徴のあるアーミッシュのライフスタイルはどのように位置づけられるかということである。2007年の国際会議では、聖書の解釈に基づくきまりである、「shunning シャニング」(社会的忌避)や「赦し forgiveness」に関しても、報告がなされた。

2008年11月に行った現地調査において、アーミッシュの移動性が高まっていることに関し、情報収集をした。第一は、特に代替医療(オルタナティブ・メディスン)を求めてメキシコに旅するケースがみられるようになったことである。保険を拒否するアーミッシュは、高額な医療を適用することは困難だが、それ以外にも、現代医療とは異なる要素を提示している代替医療により深く興味を抱いていると推測される。第二は、長年耕した土地を離れ、ケンタッキー、ウィスコンシン、ミズーリ、ニューヨーク州などへ移住する人々が観察されていることである。今までアーミッシュ教区が比較的少なかった地域では、周囲とのコンフリクトが予想される。これらの新しい移動に関して、理由は確定できていないが、アーミッシュと外部との関わりが増加することは確実である。

## 3 「オールドオーダー」の登場

現代文明に対して特に厳しい態度をとる「オールドオーダー」は、どのような理念をもっているのだろうか。アーミッシュの多様化の歴史を辿ると、実は、信仰実践に関し異なる考えをもつ人々が新しいグループを作って離れることによって、「オールドオーダー」が初めて登場すること

になったのである。聖書を自分で読んで自分で判断することが重視される再洗礼派の一教派として、「オールドウヌング」（生活をめぐるきまり）は、聖書の解釈によって異なってくるのである。アーミッシュは、礼拝、学校、自動車、シャニング、服装などをめぐる「オールドウヌング」の違いによって、グループに分化してきたのである。

1877年、アーミッシュ・メノナイト（ミーティングハウス・アーミッシュ）が礼拝用ミーティング・ハウスを建設して分離し、それまでのアーミッシュは、「オールドオーダー」（ハウス・アーミッシュ）と呼ばれるようになった。

1910年、ピーチィ・アーミッシュが、シャニングや服装をめぐるきまりが厳し過ぎるとして分離した。ピーチィ・アーミッシュは、オールドオーダーが禁止していた日曜学校や自動車の所有・運転を認め、後にピーチィ・アーミッシュと合併した。

1966年にニューオーダー・アーミッシュが分離した。農場でトラクターを使用することを認めたグループである。とはいえ、道ではバギーを使用し、ミーティング・ハウスをもたないなどの点を考慮すると、より世俗化したグループと解釈することは適切ではない。

#### 4 ワンルーム・スクールの登場

オールドオーダーの人々の特徴として、ワンルーム・スクールにおける教育を守り続けていることがあげられる。アーミッシュのワンルーム・スクールは、1940年代から増加してきた。アメリカにおける中等教育の義務教育化との攻防が続けられてきたため、ワンルーム・スクールが登場したのである。アーミッシュは、当初、公立学校教育自体に問題があるとしていたわけではないが、価値観を学ぶ年代を重視するという観点から、義務教育の期間に従うことができなかった。



ペンシルヴェニア州ランカスター 2008年11月

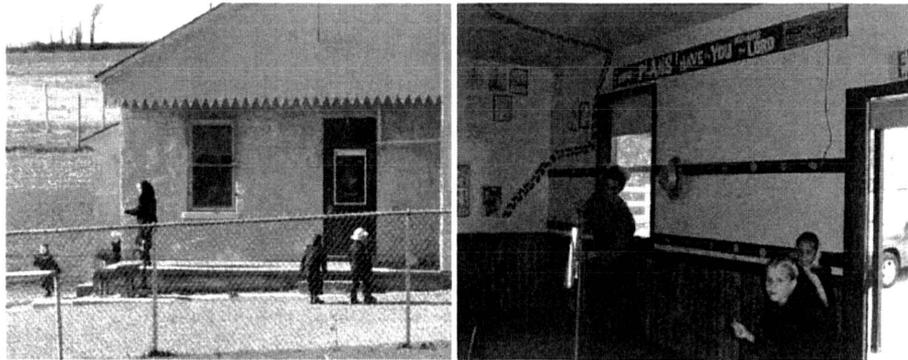
1938年、ペンシルヴェニア州ランカスター郡では、義務教育は17歳の誕生日まで（農業を営む場合は15歳）とされたが、アーミッシュは第8学年14歳までに就学を限定することを主張した。1955年には、アーミッシュ職業学校で週3時間「活動記録」をつければよいという妥協案が提示された。1960年代には、アイオワ州で「職業学校」では不十分という見解が出され、アーミッシュ以外の人々の関心をも集め、「アーミッシュの信教の自由のための全国委員会」が設立された。

ついにウィスコンシン州でアーミッシュの父親が逮捕され、裁判が行われた。1972年、連邦最高裁において、原告アーミッシュが、憲法修正第一条（信教の自由）、修正第14条（何人も正当な法の手続きによらないで、生命、自由、あるいは財産を奪われることはない。）に基づいて勝訴した。

#### 5 ワンルーム・スクールにおける活

オルタナティブな教育のありかたの一つとして、親たちが中心となって地域で運営されてきたワンルーム・スクールでは、どのような活動がなされているのだろうか。たとえば、ランカスター郡の Welsch Mountain School は、比較的大規模な2ルーム・スクールで、二人の教師が1-3年生（地

下)、4-8年生(1階)を担当し、子どもたちは読み・書き・計算を学ぶ。授業では、子どもたちは基本的に一人一人が勉強して教師に見てもらう形式で、他の人との競争関係



ペンシルヴェニア州ランカスター 2008年11月

は生じない。ほとんどの子どもたちは、スクーターでやってくるが、自分でバギーに乗ってくる子どももいる。15時までだが、電気を使わないので、曇った日には部屋が薄暗い。

クラスルームの中は、学年ごとに着席する場所が決まっている。壁には、手話の方法を示す紙や訪問者用のメッセージが貼られている。訪問日はスプリングの授業予定であったが、訪問すると皆が前に整列して歌をプレゼントしてくれる。閉じた環境に過ごしているという印象をもっていたが、むしろ外来者へのホスピタリティを教師が熱心に示し伝えていると感じられた。

訪問すると子どもたちが1頁ずつ書き記した『自己紹介ブック』を見せてくれた。すべての子どもたちが、自分の名前、年齢、両親について、将来なりたいもの、好きなことの5つを記載している<sup>1</sup>。将来なりたいものとしては、ペンキ屋などをはじめ、アーミッシュの多くが就業している職業が書かれている。好きなこととしては、動物に餌を与えることや、子守りをするなど、日常生活で実際に家族の中で担っている役割も多く書かれている。結婚前の女性が務める教員の頁も設けられており、「世界に向かって一生懸命働きかければ、報われる」という信念と、様々な役割をトータルに演じることによって自分は「教師になった(become)」と、綴られていた。

## 6 アーミッシュの教育とライフサイクル

このようなワンルーム・スクールにおける教育を実践してきたアーミッシュだが、それを第8学年までに限定することに固執するのは何故なのか。それは、以下のようなライフサイクルに関する考えかたと関係すると考えられる。

- ①赤ん坊 (babies) 歩行まで
- ②幼児 (little children) 6歳か7歳までで、小学校に入学するまで
- ③生徒 (scholars) 6歳から14歳までで、学校に通う子ども
- ④若者 (young people, youth) 学校を卒業後、結婚するまで
- ⑤成人期 (adulthood) 結婚(多くの場合20歳代前半)し、最初の子供が誕生し子育てする社会的成熟期
- ⑥老人 (old folks) 末の子どもが結婚し、子育てを開始

ワンルーム・スクールを終えた後の若者 (young people) は、親と共に仕事をしたり、家の外で徒弟となる。重要なのは、この期間が、アーミッシュでない他の若者と同じような生活経験が許される、いわゆる「放蕩」の時期でもあることだ。アーミッシュになるかどうかを決断する若者にとってこの時期は不可欠と考えられている。若者の時期に習うことは、仕事に関する考え方、

コミュニケーションのしかたなどである。

アーミッシュは、大地を耕す農業を理想の職業としているが、それは、多くの人が仕事を分かち合うことができることや、「弁当箱」に象徴される、家から遠く離れたところに通勤するサラリーマンのような生活を避けることができるからである。近年、都市化が進行する地域では、農業を生業とすることができない場合もあるが、農場の端にショップを設けたり、レストラン従業員、キッチン・キャビネット作りなど、コミュニティや家族から離れずに行えるアーミッシュ・ビジネスが次々に工夫されている。



ペンシルヴェニア州ランカスター 2007年6月

農業のみならず、幼い頃から、コミュニティ・メンバーや家族と共に行なう数々の行事は、アーミッシュとして生きていくことを可能とするライフスタイルを伝えるものでもある。

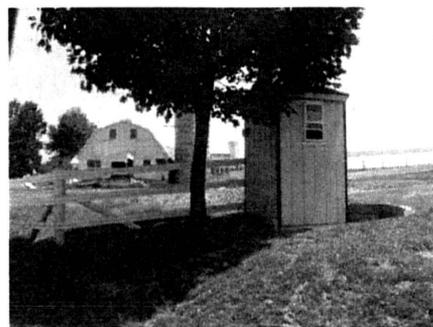


また、専門職者としての聖職者を置かない礼拝の仕方は、すべての人々が平等であるという考え方を基盤としている。同じ服装に象徴されるように、特定の人のみが目立つことを戒め、皆が目立た

左 日曜日の礼拝にメンバーの家に集まった人々  
右 日曜日の礼拝の服装をしたアーミッシュ・メノナイトの婦人  
ペンシルヴェニア州ランカスター 2008年11月

ず埋没することによって、すべての人に光があたるといふ平等感を共有する状況を作り出す。車も、必要以上に人々を早く遠くへ運ぶという以外に、ステイタスを示すものとしても、問題視されてきた。

日曜日の礼拝、月曜日の洗濯、秋の木曜日に多く行われる結婚式など、季節ごとに周囲の者と同じ生活リズムの中で暮らし、共同作業を行うことによって、互いが必要とされる経験を積み重ねる。それらの行事は、共に食事をする時間を必ず用意している。



農場の端に設置された共用電話ボックス ペンシルヴェニア州ランカスター 2007年6月

電話を使用しないなど、常に対面でコミュニケーションすることが重要となる生活のきまりによって、互いによく知り合い、足元を照らしだすことを可能としている。これらが、すべて、相互扶助やケアの基盤につながっているのである。アーミッシュは、公的に整備された保険を否定

し、目に見える範囲の人々が支援し合えることを重視している。オールドオーダーにしても、アーミッシュ・メノナイトでも、子どもに農場の経営を任せた親世代は、新しい棟を母屋につける形で建て増して「大きなお父さんの家“Gross daadi” Haus（“グロースデーディー”ハウス）」に暮らす。アメリカ人の多くが暮らす退職者コミュニティ（Retirement Community）に移動することはない。



建て増し中の大きなお父さんの家  
ペンシルヴェニア州ランカスター 2008年11月

### 7 オルタナティブ教育と時のデザイン

コミュニティのありようは、人々が、「自由をとるのか、安全を保障されるのか」という問題と関わるとされるが、アーミッシュの場合は、グループごとに、自由と安全の調整を試みながら、暮らしているといえよう。子ども期からアーミッシュになるかどうかを決定する若者期にかけて、コミュニティに生きる術と、コミュニティを活かすための工夫が伝えられるとあってよいだろう。

最近では、外部との関わりが意識される事件も発生し、アーミッシュの人々は、再洗礼派の一グループとして、自らの考え方を外部に明確にすることになった。

オールドオーダーとしての暮らし方を変えずに、外部と繋がりメッセージを発信することも試みられるようになった。オールドオーダーのヴォランティアにより、世界各地に向けて支援物質が届けられたり、キルトのリリーフセールによって集積された資金が送られることもある。ペンシルヴェニアにある北米最大の MMC(Mennonite Central Committee)には、子どもの会議室が設けられており、グループに関わらず、子どもと大人が時間や経験を共有するしくみがつくられている。これらヴォランティアによる支援システムは、もととはといえば、平和主義によって徴兵に従わなかった再洗礼派が外部と調整しつつ工夫してきたものだが、いまでは、世界各地と繋がる重要な方法となっている<sup>2</sup>。

大人も子どもも、時を共有するという暮らし方は、より広く、再洗礼派の人々に支持されているホームスクールというオルタナティブの実践にも表れている。高校生が家にいてのんびり親た



上 アーミッシュによる支援組織 Christian Aid Ministries

下 北米最大規模の MMC の子ども用会議室 ペンシルヴェニア州 Akron 2007年6月

ちと歌をうたっていても決して心配することではない。親のもとで、好きなペースで勉強してゆくというホームスクールは、再洗礼派のみならず、全米で 1980 年代から急増し、1997 年には 123 万人が学び、年々15%増を遂げ、50 州で合法となっている<sup>3</sup>。

教会の支援を基盤とする全国的な「ホームスクール」ネットワークも組織されている。1960 年代には対抗運動の一つとして、1980 年代からは公立学校における多文化主義教育などのありかたなどを問題視し、教育における「家族の価値」を問い直す動きと連動している<sup>4</sup>。ホーム



ホームスクールで看護師になる勉強を続けるメノナイトの高校生  
ペンシルヴェニア州ランカスター 2008 年 11 月

スクールの動きは、公立学校の役割、教育権、多文化社会などに関連し、子どもは何を教えられるべきか、どのように学ぶべきなのか、という問いの浮上と関わっている。

ホームスクールで学んだアーミッシュ・メノナイトの青年によると、ホームスクールでは、順位を気にすることもなく、自分が特に興味を感じる部分を伸ばし、たくさんの本を読み、教材から学ぶことと徒弟を並行して行うこともでき、結果としてより適した仕事をしたり、ライフスタイルを模索する力を身につけることができたと感じられるという。彼は、後にカレッジを卒業して希望するコンピュータ関連の仕事に就いた

アーミッシュはもとより、再洗礼派の人々の中で実践されるオルタナティブ教育は、幼い頃から、コミュニティの安全装置としてのシャニングや、調整の装置としての Forgiveness、オルドゥヌングの変更をめぐる議論を身近に感じつつ成長し、どのようなコミュニティにどのように生きるのかという時のデザインを検討し、話しあうベースを自分のなかに形成してゆくことにつながっているといえよう。それは、様々な背反する価値観のもとでコンフリクトに晒されつつ生きる術を醸成するものでもあろう。

## 注

1) 原文は、以下のとおりである。"Hello my name is … ; I am … years old. ; My parents are … ; When I grow up I want to be … ; My favorite thing to do …"

2) I-W からアーミッシュ・メノナイト援助組織への動きは、以下のとおりである。1948 年、「冷戦」時国防と西ドイツ・日本への駐留を目的として徴兵プログラムが提示されたが、アーミッシュは 1952 年、代替プログラム "1-W" として病院など国益に沿う民間事業に従事した。

1960 年代には、1-W に就いた若者の半分しかコミュニティに帰還していないことが判明し、ビーチ・アーミッシュはコミュニティで若者が過ごせるように、5 州教区内に退役者用ホームをつくり 1-W の者を配置した。これが今日「アーミッシュ・メノナイト援助組織」として発展している。オールド・オーダー・アーミッシュは、『平和の使節 Ambassador of Peace』の発行を開始し、1966 年から遠く離れた地域で任務を行っている 1-W の子弟に送り始めた。

1966 年には、コミュニティ内の農場労働をすることが 1-W として認められた。全国規模の委員会(National Amish Steering Committee)も組織され、政府と交渉を続け、今日のメノナイトの支援組織 MMC (Mennonite Central Committee),アーミッシュの支援組織 CAD (Christian Aid Ministry)に発

展してきた。

3) ギャラップ調査(1997年)では望ましいとする人が36%に達している。

4) ヴァーモント州、ミネソタ州などのように公立学校との連携が進められている地域もある一方で、ジョージア、ケンタッキー州などでは、規制強化の動きがみられる。

#### 参考文献

鈴木七美「アーミッシュのユートピア」『言語』4月号、大修館書店、2002年

鈴木七美「アーミッシュを訪ねて 歴史的背景と多様性」「信仰と家族・コミュニティ」「コミュニティの中の教育」「アーミッシュの食文化」「生活とアート・キルトの世界」「現代社会とアーミッシュ」『言語』4月号～9月号、大修館書店、2003年

鈴木七美「キリスト教非暴力・平和主義の底流—再洗礼派メノナイト・アーミッシュ」『クラブが創った国アメリカ』(結社の世界史5) 山川出版社、2005年

鈴木七美「アーミッシュの人々のコミュニケーション—アメリカ合衆国における静かな試み—」『月刊みんぱく』国立民族学博物館、2007年

鈴木七美「アーミッシュの結婚式の食」味の素食の文化センター『ヴェスタ』71号、2008年